



ゆくて遥かに

平成 30 年 4 月 9 日 (月)
第 2 号
長野県松本深志高等学校長

入学式 (4 月 4 日)

満開の桜の下、平成 30 年度の入学式を挙行了しました。男子 167 名、女子 156 名、合計 **323** 名の入学を許可し、いよいよ深志の高校生活がスタートです。式辞では、「今まで皆さんが見てきた深志高校は先輩たちが築いてきた先輩たちの深志高校。皆さん自身の深志高校はまだどこにもない。今日からは皆さんが、ここにいる仲間とともに、自分たちの力で、皆さん自身の深志高校を築き上げ、作り上げていってほしい。」と激励しました。また、本校入学式の式辞では外せない、松本中学初代校長の小林有也先生の**御三訓**にも触れ、本校の授業を中心に据えながら、深志の学校風土の中に蓄えられている全てのメッセージを全身でしっかりと受け止めていってほしい、と訴えました。**井上同窓会長、渡辺 P T A 会長**のお二人の先輩方から温かくも心のこもった励ましのご祝辞をいただき、最後は校歌です。応援団管理委員会 (通称、応管) が中に入り、一緒になって歌ったとはいえ、講堂全体に響き渡る校歌の音量から推測するに、相当数の保護者の方々と新入生の声も加わっていたと思われま



新入生を待つ教室



深志の学校生活は講堂で始まる

す。新入生の皆さんのこれからの高校生活の充実と大なる活躍を心より期待しています。

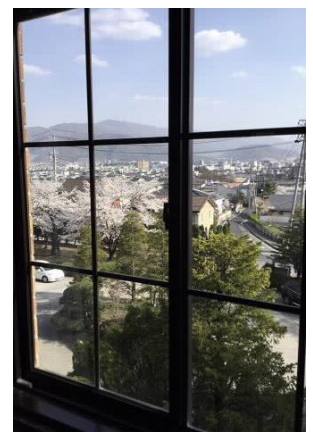
のこもった励ましのご祝辞をいただき、最後は校歌です。応援団管理委員会 (通称、応管) が中に入り、一緒になって歌ったとはいえ、講堂全体に響き渡る校歌の音量から推測するに、相当数の保護者の方々と新入生の声も加わっていたと思われま



始業式では (4 月 3 日)

今こそ深志の底力を見せよう、と 2・3 年生に檄を飛ばしました。

前生徒会長の津野尾くんの卒業式の答辞 (※) を引きながら、どこで深志の底力を示すか、一つは様々な**自主的で主体的な活動**において、そしてもう一つは**進路希望実現**において。深志の自治の校風は広く知られているけど、その校風に存在意義を持たせるためには、説得力を持つためには、やはり受験の壁を乗り越えて進路結果を出していくことも必要。知徳体のバランスがとれていること、苦しいときに踏ん張れる体力と精神力があること、さらに、仲間と一緒にやっていく力があること。これらの力を育成するためには、勉強・部活・行事の相乗効果が大切で、



教室の窓から見える松本市内

そのために時間の使い方、優先順位、オン・オフの切り替え、隙間時間と少しの努力の習慣化、集中力、こういったタイムマネジメントを意識しよう、と呼びかけました。

(※) 津野尾くんの答辞から引いた部分

様々な分野に秀で、多種多様な価値観を持つ友人たちと過ごした高校生活はとても刺激的だった。この多様性と自治の精神に基づく寛容さの中で揉まれ、自分で自分の生き方を決めてきた深志での三年間は、これからの変化の激しい時代を生きていくために必要な財産となった。深志の「多様性」と「寛容さ」の中で、皆がお互いに相手を一人の人間として認め合い、尊重しあっている校風を、在校生の皆さんは四月からも紡いでいってくれたら嬉しい。

対面式、そして歌の練習へ（4月5日）

応管主催の対面式は、仕事の都合上、直接会場で見ることができず、写真は新聞委員の生徒からもらいました。私は、その機能のほとんどを使いこなせていないiPadを持っているのですが、生徒にお願いしたら**一瞬にして**こちらの方に写真を



移動させてくれました。**デジタルデ**

バインドを改めて実感。昔（って、相当さかのぼる昔ですが）の対面式では生卵やらトイレットペーパーやら水の入った袋やら、いろいろなものが新入生に向けて投げられ、荒っぽい祝福を受けたこともあったようですが、今風の対面式のスタイルはスマートなお出迎え。今年は一年生からも積極的に発言があったようで、まずは和やかな雰囲気の中で先輩たちとの初対面は終了。

しかし、その甘い幻想も束の間のこと、同日の放課後には同じく応管による歌の練習が始まって……。次回に報告いたします。



↑ 生徒ではありません



歌練初日は悪天候のため小体育館で

今週の予定（A1）

日	曜日	行事等	その他
9	月	歌の練習（1年）	
10	火	歌の練習（1年）	中信地区校長会
11	水	職員会	
12	木		
13	金	縮小とんぼ祭	
14	土	縮小とんぼ祭	
15	日		
16	月	（B1）健康診断（3年）	